

【基本方向】多様な進路に対応した教育体制による実践に必要な技術・知識の習得強化					
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	自己評価	次年度に向けた改善策
1	少人数制による多様な進路に対応したきめ細やかな学習支援の充実 (1)進路決定率:100% (2)就農率:60%	① 少人数制によるきめ細やかな学習支援【継続】 専攻学科に担任を配置し、各学科において少人数でしっかり学べる教育体制とし、学生個々の習熟度に応じたきめ細やかな指導を行い、基礎から実践までの知識・技術の習得を図る。 ② 多様な進路に対応した指導【継続】 就農、雇用就農、就職、進学 of 4つの進路指導コースを設定し、進路の実現に向けて、きめ細かく支援する。 具体的には、農業系学科では、就農志望者に対して就農計画の作成等を指導するとともに地元農業技術普及課との連携により、スムーズな就農開始を指導する。就職志望者に対しては農業法人や農業・食品関連企業を招いた就職相談会を開催し、雇用就農や企業就職に向けた雇用マッチング支援を行う。 林業経営学科では、林業・木材関連団体が開催する合同就職説明会への参加とインターンシップを実施し、進路決定を支援する。	・ 学科単位に2～15名の少人数制で講義・実習を行い、学生の習熟度に応じて基礎から実践的技術までの習得を図る濃密な指導を実施した。 ・ 進路選択にあたっては、学生との二者面談、学生・保護者との三者面談を、随時実施し、進路決定に向けた具体的な指導を行った。 ・ 山形県若者就職支援センターによるキャリアカウンセリング(進路決定に関する相談:2回)や就職に関する講義(4回)を行い、学生の早期の進路決定を支援した。 ・ 農林大卒業生を講師に迎え、進路別に自らの体験からアドバイスをもらう「卒業生との懇談会」を開催した(5/30)。 * 2学年全員の100%の進路決定率を達成することができたことから、「B」評価とする。 ・ 就農コースにおいては、就農計画等の作成指導や農業法人代表者等の講義、現地視察等により、就農に向けた準備を指導した。 ・ 農業系学科の雇用就農及び就職コース対象者向けに、農業法人及び農業・食品関連企業計47社を招いての就職相談会を開催した(6/2)。林業経営学科は、やまがた森林と緑の推進機構が主催する「森林の仕事ガイダンス」(1/16)に1学年全員が参加し、就職情報を収集した。 ・ 進学コースにおいては、1名が新潟食糧農業大に合格した。 ・ 今年度卒業生の進路状況は、下記のとおりとなった。 ◇就農35名(即就農8、研修後就農1、農業法人への就職17、林業・木材産業への就業9) ◇就職21名(公務員等4、農協4、農業・食品関連13) ◇進学 1名(4年制大学3年次編入1) * 就農率は61.4%となり、目標60%を上回ったことから、「B」評価とする。	B (1)B (2)B	・ 今後とも少人数制による講義、実習を実施し、学生の習熟度に応じて基礎的知識や実践的技術の習得を図る。 ・ 引き続き、担任は、学生の希望を踏まえつつ、学習や寮生活等に関する悩みを把握し、必要に応じて専門家によるキャリアカウンセリング受診を勧めるなどして、的確な進路指導に努める。 ・ 次年度も、「卒業生との懇談会」や「農業法人等との就職相談会」の開催、「森林の仕事ガイダンス」への参加とインターンシップの実施により、学生と農業法人、林業事業者等とのマッチングを図る。 ・ 就農率を向上させるため、山形県地域営農法人協議会等と連携し、農業法人へ求人票提出を働きかけるとともに、先進農林業者等体験学習やインターンシップ等により農業法人への就職のイメージを醸成する。
2	販売力の養成と強化 (1)販売実習等の実施回数:4回	① 農大市場等における販売力の強化【拡充】 学生各自が、役割分担を明確にし、意欲と責任を持たせながら、校内組織(農大市場委員会)を中心とした学生の自主的な運営を目指す。また、校内販売(農大市場)だけでなく、新庄市内等での販売機会をとりえて出張販売に出向き、異なった販売環境と客層のもとで販売実習を行う。 <u>また、商品開発のデザイン力強化に向け、東北芸術工科大学の外部講師派遣について要望等を行う。</u>	・ 農大市場については、農大市場委員会が中心となって、学生の自主性を活かした運営となるよう取り組んだ。予定どおり4回開催し、特に4回目は、4年ぶりに開催した農大祭との共催としたこともあり、1,156名の来場を得た。各回とも開催に当たっては、ホームページやフェイスブック等を通じて広報した。 ・ 新庄市内で開催された「kitokitoマルシェ」へ5回出店し、地元の賑わいづくりに貢献した。 ・ 山形県農林水産祭(10/17)において、果樹や野菜、農産加工品を販売した。 ・ デザイン力強化にあたっては、新庄市のデザイナーである吉野敏充氏に講義を依頼し「マーケティング実践(2学年、必修)」の中で商品開発やPOPデザイン等を学んだ。その成果の一つとして、農産加工経営学科2年生が「山形うまいものフアインフードコンテスト」における審査員特別賞受賞作品(「焼き肉のたれ」)のパッケージデザインにも生かされた。 * 当初の計画どおり農大市場4回のほか外部のイベントで6回出店することで、学生の意欲と商品力の向上につながったことから、「A」評価とする。	A	・ 農大市場(4回)をはじめとした様々な販売実習を通じて、農作物や農産加工品、卒論成果品のアンケート調査等を実施し、農産物生産や商品改善に活かしていく。 ・ 引き続き、講義の中で、商品開発やPOP作成の他、パッケージデザイン、販売管理、販売データの収集・分析等を学び、商品力向上に取り組む。
3	企画・構想力、プレゼンテーション能力の充実 (1)全国レベルでのプロジェクト発表会・意見発表会等での上位入賞:1件以上	① 全国規模の発表会等への参加【継続】 学習成果の発表の場としての東日本及び全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会、ヤンマー学生懸賞作文の部、毎日農業記録賞等へ応募する際、校内での指導をさらに強化し上位入賞を目指す。指導体制を強化するため、各担任、副校長、教務担当等をメンバーとしたプロジェクトチームを結成し、指導にあたる。 パソコンやワード、エクセル、パワーポイントに不慣れな学生に対しては、集中的に指導するための時間を設定し、パソコンやプレゼンテーションの基礎を習得させる。	・ 卒業論文には2学年全員が取組み、東日本農業大学校等プロジェクト発表会へ校内審査会(12月)で選ばれた代表学生3名が出場した。意見発表の部には、8月の校内発表会を経て、1年生2名が出場した。その結果、プロジェクト発表の部で「最優秀賞(農林水産大臣賞)」を受賞し、全国大会へ出場した。全国大会は2月に開催され、発表内容・態度が評価され「最優秀賞(1位)」を獲得した。 ・ 森林・林業技術交流発表会(東北森林管理局主催)において、林業経営学科2年の学生が、優秀賞を受賞した。 ・ 毎日新聞記録賞(一般の部)で、林業経営学科1年の学生が入選を果たした。 ・ 各賞応募にあたっては、1学年全員に対して、ワード、エクセル、パワーポイントに関する講義を行い、資料作りやプレゼンテーションの基礎を習得させた。 * 全国プロジェクト発表会において最優秀賞を受賞したほか、毎日農業記録賞 入選(1件)等の上位入賞があったことから、「A」評価とする。	A	・ 卒業論文の実施にあたっては、まずは課題設定が重要であることから、「卒論論文計画発表会」にて、学生・教職員間で十分な検討を行う。 ・ 卒業研究の実施に際しては、関係機関、生産者、流通関係者等の協力・助言を受けながら取り組む。 ・ プロジェクト発表会・意見発表会等への指導体制を強化するため、各担任、副校長、教務学生担当等をメンバーとしたプロジェクトチームを来年度も引き続き結成し、指導する。 ・ 意見発表については、外部講師による作文指導が効果的であったことから、来年度も引き続き実施する。
4	オンライン講座の活用による教育の充実 (1)オンライン技術を活かした授業等の実施回数:1回	① オンライン技術による最新技術等に係る講座の開設【拡充】 コロナ禍の中取り組んできたオンライン講座のノウハウと利点を生かし、 <u>遠距離を含め講師選択の幅を広げながら、最新・最先端の技術や情報に触れる機会を設ける。</u>	・ 「スマート農林業」、「特別講座」等の授業において計4回にわたりオンライン講座を開講することで、講師の負担を軽減しながら高度な技術等を学ぶ機会を設けた。 ・ その他、オンライン講座のノウハウを活かし、病気療養中の学生1名に対し、遠隔授業を実施して、無事単位取得、進級できる見込みとなったほか、卒業論文発表の代表者選考会を農業高校に対してオンライン配信をすることで、本校の理解向上に繋がった。また、本校OBの山形大学農学部生を講師に4年制大学編入希望学生に対する面談指導をリモートで行う等多様な用途に活用した。 * オンライン配信のノウハウを活用し、講義その他に活用できたことから、「A」評価とする。	A	・ 引き続き、オンラインのノウハウを講義のみならず多面的に活用し、高度で効率的な学び等に繋げる。

自己評価	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> 2学年全員の進路を決定することができた。就農率については目標の60%を概ね達成することができた。 農大市場を計画どおり4回開催しながら、販売力強化に繋げることができた。 プロジェクトチームを中心に指導を強化した結果、全国農林大学校等プロジェクト発表会等において、見事に最優秀賞(農林水産大臣賞)を受賞することができた。(H21以降の過去15年間において6回目の最優秀賞受賞) 	A

学校関係者評価	学校関係者の意見・要望等→次年度の改善策等	評価
<ul style="list-style-type: none"> 4つのコース別指導で進路決定率、就農率高く、学校で学んだことを活かせる進路に進んでいる。農業法人への雇用就農の拡大に期待する。 高校でも課題解決型学習に力を入れているが、農林大でも高いレベルの研究が行われている。 全国プロジェクト発表会での最優秀賞受賞には、学生のレベルの高さが現れており、極めて高く評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の農大祭は、大学、農大、試験場が一体となり盛大にやってほしい。 → 今年度の開催は、コロナ禍の影響が残る中、試行的な取組みであった。今年度は、新設の東北農林専門職大学と連携しながら大幅に内容を見直し、学生の満足度が高く、地域から喜ばれる取組みにしたい。 林業分野での就職に関し、対象となる森林組合及び林業事業者をしっかりと理解したうえで就職先を決めることが必要 → インターンシップ等を通じて業務内容や方針を十分把握しながら進路を決定するようサポートする。 	A